

第 1 回放射性廃棄物処分関連分野プログラム技術評価検討会
議 事 要 旨

1. 日 時：平成 28 年 11 月 1 日（火）10：00～12：00

2. 場 所：経済産業省別館 11 階 1111 会議室

3. 出席者

（検討会委員）[敬称略・五十音順、※は座長]

北田 貴義	株式会社三菱総合研究所	主席研究部長
※小島 圭二	東京大学	名誉教授 地圏空間研究所
鳥居 和之	金沢大学	理工研究域 環境デザイン学系 教授
中野 政詩	東京大学	名誉教授
福井 勝則	東京大学	工学系研究科 システム創成学専攻 教授

（事務局）

放射性廃棄物対策課 放射性廃棄物対策技術室

室長 宮本 岩男

課長補佐 島田 顕臣

（評価推進課）

産業技術環境局技術評価室

課長補佐 村田 博顕

技術評価専門職員 江間 祥三

4. 配付資料

資料 1	放射性廃棄物処分関連分野プログラム技術評価検討会 委員名簿
資料 2	研究開発評価に係る委員会等の公開について
資料 3	経済産業省における研究開発評価について
資料 4	評価方法（案）
資料 5	評価コメント票
資料 6－1	放射性廃棄物処分関連分野に係る研究開発プログラムの概要
資料 6－2	各プロジェクトの概要
参考資料 1	経済産業省技術評価指針
参考資料 2	経済産業省技術評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準

5. 議事内容

(1) 座長選出

委員の互選により、小島委員が座長に選任された。

(2) 評価検討会の公開及び評価の方法等について

事務局から資料2～5について説明を行い、本検討会を公開することについて了承された。

(3) 事業の概要について

事務局から、資料6－1、資料6－2について説明を行った。主な質疑応答を以下に示す。

- ・評価結果はどのように生かされるのかとの質問に対し、プログラム全体としての評価をいただくものであり、全体に反映させていくと回答。また、研究開発が足りない点や、今後実施すべき内容を提案していただきたい旨を補足。
- ・個別の研究開発事業において、委託事業として確立したい技術開発内容の設定が妥当であるかも評価の対象かとの質問に対し、確立したい技術の内容は所与のものであり、今回は技術の確立に向けて、個別の研究開発事業で実施した内容や成果が評価の対象範囲であると回答。
- ・初年度に出された予算計画は毎年評価されているのかとの質問に対し、1年目の予算額はその後保証されているわけではなく、毎年度要求し、外部レビューで評価され、増やすか減らすかを決めていると回答。
- ・資料中の「当省（国）が実施することの必要性」について、「経済産業省」と「国」は論理的には違うのではないかと質問に対し、経済産業省の技術評価なので、国が実施する必要性の評価はもちろんのこと、その中でも特に経済産業省が実施することの必要性を評価いただきたいと回答。
- ・事業の費用対効果を評価する上で参考となる内訳を知りたいとの要望に対し、予算内訳を把握できる資料を提示すると回答。
- ・全体プログラムはどう評価すべきかとの質問に対し、例えば、放射性廃棄物処分の安全性に対する安心感を醸成するために何が達成されるべきか、そのための研究開発がなされているかなどを指摘いただきたいと回答。
- ・評価の観点として社会科学的観点を含めて良いかとの質問に対し、技術評価として報告書をまとめることから、技術的な観点で評価をいただくことが基本であると回答した上で、今後の施策に生かせるよう、観点を特段限定せずにご意見をいただきたい旨を補足。

(4) 今後の予定について

評価コメント票の提出は平成28年11月15日を目途とし、質問は随時、事務局まで問い合わせることを確認した。また、第2回評価検討会は日程調整の上、委員に連絡をすることとし、書面審査もあり得ることを確認した。

以 上